

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 そら		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 13日		~ 2026年 1月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年1月16日		~ 2026年 1月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・就学前の児童が楽しんで取り組める「口腔機能訓練」	舌の脱力訓練。 奥舌を軟口蓋(上顎)につける訓練。 呼気の力を強める訓練 他。 以上を、やらされ感を持たせないよう工夫。	地域の園との連携による「言葉の指導」力。
2	ことばの発達の土台となる「この人にこの思いを伝えたい」体験重視型の療育と関係性の構築。	5領域における課題に基づいた支援。 信頼関係を築く上での特定支援者対応。 特性への配慮とイメージを共有するための遊び。 認知の向上含めて、全面発達を促すプログラム。	環境整備(遊具、おもちゃ等の充実)
3	元ことばの教室指導者4名の「民間型言葉の教室」が行う発達を熟知した指導方法。	病院の耳鼻科への同行受診、子どもの発達を理解したレベルの高いSTとの連携を通して、根拠に基づいた質の高い指導内容を探求。	アセスメント力の充実。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人的環境としての年齢層の偏り。	専門の人材による即戦力を追求する体制。	適性を備えた若手職員の養成。
2	デジタル化による保護者様への周知事項等の徹底。	スキルを持った事務担当の職員の不在。	当面は、直接支援員や管理者等がスキルアップを図る。
3	インクルージョン理念における地域の並行園との連携。	個々の児童が持つ教育的ニーズと「誰でも、どこでも支援を受ける権利」の乖離が一部に見られる。	管轄する市町の問題として、民間事業所支援と園への啓蒙する取り組みに期待。